

変わる産科のなかで

川元知子

虎の門病院産婦人科病棟

先輩に励まされて

沼田さん、お電話ありがとうございました。相変わらずの魅力的な話し声にすっかり乗せられて、「りれー随筆」の原稿をお引き受けしてしまいました。

早いものですね。堀口雅子先生の退職記念会でお会いしてから1年以上になります。あのときは大勢の方に会を盛りあげていただいて、堀口先生もお喜びのようでしたが、私にもうれしい日でした。お世話になった先生や先輩にお会いでき、なつかしさでいっぱいでした。あのようなときは、甘えられる昔にもどるような気がするものです。

沼田さんは「虎の門病院はふるさとみたいなものよ。学会とか、雑誌で見かけないと寂しい……。頑張って」とおっしゃってくださいました。私たちなりに良い援助を心がけ、毎日を過ごしているつもりですが、充実しなければならぬことが多いのも事実です。良くも悪しくも中央の大きな病院として注目され、活動が期待されていることを知り、頑張らねばと思うのです。

継続看護をめざして

遅くなりましたが、諏訪マタニティクリニックへのご紹介ありがとうございました。若い人たちにとっては、その人に合った方法を工夫する前に、〇〇方式を勉強することが精神的に良いようです。お蔭様で、研修では心地よい刺

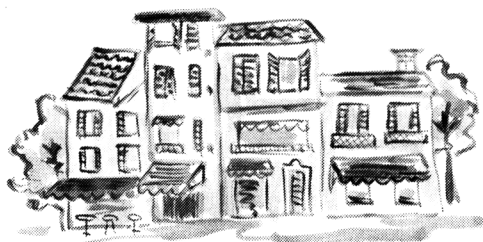
激を受けてきたようです。小まわりがきかない病院ですので、やりたいと思うことがスムーズに進まず戸惑っている点もありますが、授乳の問題を抱えたお母さんたちの相談窓口をつくりたいと準備しているところです。

妊婦さんの生活相談という形で5年前、週1回から始めた産科相談も形が整ってきました。産婦さんとのコミュニケーションが良くなった、問題のある人が事前にチェックでき対処しやすくなったという点から、産科相談を始めて良かったと思っています。

専門的な判断と、情報提供ができ、問題を未然に防ぐことができるようになることが課題です。母乳相談も、産後相談の第一歩にしたいと思います。そして、妊娠から産褥までの継続看護が充実できればと思うのです。ただ、都心の病院であり、限界があります。沼田さんの地域での活躍を知り、大変心強く思っています。多くの地域で母性看護に携わっていらっしゃる方々と、連絡を取りあってゆけるようにしたいと思っています。

安全、安楽をもとめて

分娩管理も大きく変わってきました。長期入院の妊婦が増えています。不妊治療後の妊娠、多胎、PROM、胎児異常、子宮筋腫や他疾患の合併などです。陣発そして入院がほとんどであったのは5年くらい前までで、今は常時10人近い妊婦さんがいます。助産婦はモニタリングや全身のケアに早朝から駆け回っています。



病院の役割を考えると、しかたのないことともいえます。そのなかで、どのようにすれば安楽に過ごしてもらえるかを工夫することが大切だと思っています。

幸い、異常でない限り自然経過を重視し、ケアに関しては看護婦を尊重してくれる医師に恵まれています。分娩、産褥、新生児のケアにおいても助産婦の機能が保たれています。その分だけ私たちの責任も重く、信頼に応えられる助産婦の実力が要求されます。安全、安楽の両面のバランスを保ちながら援助できるのは私たちに任じて、努力しなくてはと思うのです。

最近の産婦さん、家族はお産を病気と考えているのではと思えてくるほど、ひよわで過敏になってきました。情報に踊らされてもいるようです。このような人たちには画一的でない対応が必要となってきて、苦慮しているところです。夫立ち会い分娩は軌道に乗っていますが、色々なニーズに合わせた対応を考えるのも、安楽なケアにつながることであるので、柔軟に応じられるようにしたいと考えています。

先輩から、後輩から

沼田さんのお仕事ぶりを伺っていると、ゆったりした声で産婦さんを安心させ、柔らかい手で乳房のマッサージをして感謝され、落ち込んでいる後輩を力づける話ぶりが目に浮かぶようで、今もますます輝いている様子を感じさせられました。お電話では「そのうちマタニティビックスの指導もできるように勉強するつもり」

とおっしゃっていましたね。沼田さんの母子への愛情、ファイト、行動力は今も私の目標です。

虎の門病院の狭い世界のなかで暮してきましたが、大勢の人たちと出会うことができました。患者さん、特に障害児とそのご両親には、人間の可能性を教えられました。そして先輩、同僚。最近では、後輩との出会いが楽しみです。どの人も目を輝かせて、良い看護婦になろうと入ってきます。一生懸命患者さんに向き合い、喜び、悩んでいます。そのような彼女たちの姿に新鮮な刺激を受け、成長を見るのが楽しみです。いつしか年月が経ってしまったというところでは。

しかし時には、この後輩たちの可能性を摘んでいるのでは、やる気を失わせているのではという思いもあります。沼田さんは誉め上手でした。これはとても大切なことだと、最近特に、感じています。認め、信頼し、協力して母子看護をすすめることができ、初めて私の自立が本物になるのでしょう。

せっかくの随筆のコーナーですのに、仕事以外の話題が書けないのは寂しいですね。とりあえず、山歩きでもしてみましょう。尾瀬の秋も素晴らしいです。一度一緒したいですね。

* * *

次は、厚生省看護研修研究センター時代の同級生の若い友人、丹波恵津子さんをご紹介します。助産婦、教員、そして今は子育てを楽しんでいらっしゃるようです。